

◆ 主な研究課題・事業 ◆

課題1 さくらんぼ新品種の開発

気候変動や労働力不足など、さくらんぼ栽培の課題を解決するため、「佐藤錦」より早く収穫できる早生品種、高温条件や輸送に耐える硬肉品種、着色管理が不要な全面着色品種、安定して結実する自家和合性の性質を持つ品種、4L生産が可能な超大玉品種の開発に取り組んでいます。



大玉で外観の優れるさくらんぼ新品種「山形C12号」(やまがた紅王)

課題2 西洋なしオリジナル優良品種の開発

西洋なしの「ラ・フランス」に偏重した生産を回避するため、「ラ・フランス」の前後に収穫可能で、外観も優れる良食味品種の育成に取り組んでいます。

さらに果皮色が黄色に変化して食べ頃が判りやすい品種など、特色のあるオリジナル品種育成に取り組んでいます。



肉質が良く、西洋なし最高の甘さの「メロウリッチ」

課題3 ぶどうオリジナル優良品種の開発

良食味で果皮ごと食べられる「シャインマスカット」の登場により、大粒ぶどうへのニーズが高まっています。

そこで、優れた食味に加え、高温条件下でも果皮の着色(赤・黒)が良好で、皮ごと食べられるオリジナルの大粒ぶどうの育成に取り組んでいます。



育成中のぶどう実生

課題4 特産園芸作物の原種苗供給

県育成オリジナル品種の生産振興を図るため、果樹の原母樹と野菜花きの原種苗の維持・供給・ウイルスフリー化を行っています。特産野菜では、在来品種の「薄皮丸なす」を起源とする漬物加工用なす「山形N1号」を育成し、そのF₁種子の供給を行っています。



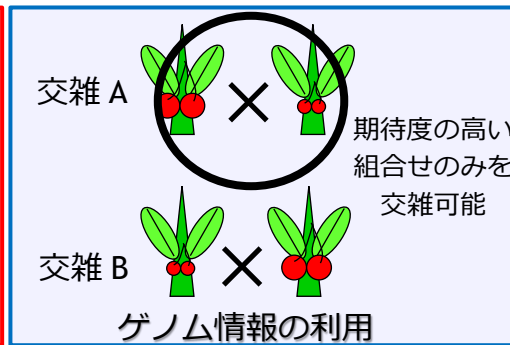
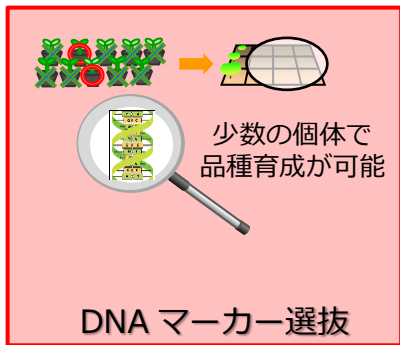
(果実)

(加工後)

漬物加工用なす「山形N1号」

課題5 ゲノム情報利用による果樹育種支援システムの開発

西洋なしでは、最新のDNA配列情報などを解析して食べ頃判定の目安となる果皮黄化性や早期結実性などのDNAマーカー開発に取り組んでいます。また、さくらんぼでは、ゲノム情報を利用して早生・大玉で高糖度の後代作出に有効な親系統の組み合わせを推定する研究を行っています。



DNA断片自動解析装置による
効率的な遺伝子解析

効率的な品種改良の実現